

# イーハトーヴの雪

作・井伏銀太郎

二〇一一年三月末 岩手県の港町の小学校の体育館 遺体安置所になっている  
一面ブルーシート 棺桶がブロックの上に置かれている 赤い靴が棺桶の前にある  
椅子の上の金魚鉢に運動会用の石灰が入っていて線香が立てられている

(大きな鞆とコート、帽子、マスクした男入ってくる)

(鞆を置いて 合掌して、棺桶の蓋を開けながら)

美雪が・・・(中を確認して)：違うな・・・(大きなため息 マスクを下げ)

(お辞儀して) お疲れさん・・・お帰えんなさい・・・寒がったな、寒がった、寒がった

いがったな、見つけてもらって (机から金魚鉢を持ってきて棺桶のそばに置く)

(男は棺桶の中の御遺体に話しているように見えるが、自分自身に語りかけている)

ちよつとばっかし、邪魔すっからね。(椅子を取りに行く)

びっくりした?・・・急に話しかけられて・・・(椅子に座る)

(辺りを見て) 今日のはな・・・新しい仏さん、他にいねみでだから

少しゆっくり話していいかな?(マスクを取って、しまいながら)

受けでね、年格好似でるって言われだんで・・・今度こそ、美雪がなって思ったんだけどな

妹なんですよ・・・あの日、いねぐなつてしまつてね

(線香道具出しながら) 不思議なものだな・・・誰かを探してる時さ

普通は見つかつと、ほつとすんだけど

(手が止まる) 何だか、見つかんねえと、ほつとすんだな

(線香の灰の片付けはじめる)

先週からね、全国から棺桶送ってもらえるようになって、本当、いがったなー

初めはさ・・・この体育館の床にね・ただ、仏さん、並べらつて、番号付けらつて

物みてえに・・・

役所の人たちも、何にもできなかつたから

私ね、最初、ここに、妹探しに来たんだけど、

少しづつお手伝いするようになったんですよ、葬儀屋だからさ

申し遅れましたが、葬儀屋の鈴木です・・・花巻から来てでね

葬儀屋だからさ、毎日のように、仏さんと向きあつてるけど(見渡して)

・こんな場所ねえな：生きてる人より、仏さんの方が多いなんで：

泥だらけの仏さんも多くてね、せつかく身元が分かって家族が来てね  
泥だらけの姿見て、ただ、突っ立ってんですよ

だから私プールから水汲んで来て、顔、綺麗に拭いてやったら

やっど・家族だつて分かって・初めて、涙、流してたな（灰 片付け終わり）

（線香を付けながら）一休さんの言葉でね

「いま死んだ どこへも行かぬ ここにおける たずねはするな ものはいわぬぞ」  
つて言うのがあんだつて・・・

人間は亡くなつと、どっか遠くへ行ってしまうつて思われてるけど、そうではないんだつて、すぐ近くにいますんだつて。

だから話しかけてみだんですよ・普通に、普通にね・生きてる時と変わんねえみだくそれが・・・物でなく、人として向き合うことじゃねえがなつて思つてね・・・

でもな、こうやつて、他人様だと、いろいろ話せるんだけど、いざ、本当の妹に会えたら・・・何、しゃべったらいいのかな（合掌 線香、元の場所に）

（棺の脇の故人の資料、持ち物の入ったビニール袋を持って見て）

車の中で見つかったんだ、だからキレイなんだな・・・

佐藤敏子さん・免許証あつて良かったね・・・この写真・・・息子さんがな  
・賢一と同じぐれだな・甥っ子さんですよ

何でもね・・・人間は2回、亡くなるつて話・・・聞いた事あるがな  
まず、肉体の死があつて、次に・・・忘却つていう、死がやってくんだつて

皆から忘れらつて、初めて、本当の死がやつて来んだな・・・つて事はだよ  
（ビニール戻す）忘れない限りさ、思い出ん中で、ずっと生き続けるつていう事じゃ

ねえがな・・・だからね、・・・ご家族が見つかんなくてもね・私だけでも、憶えていようつて  
ちよつと・・・似顔絵描いてもいいがな（手帳出す）

（似顔絵描きながら）佐藤敏子さん、あの日、あなたは何をしてたんですか？  
やっぱり、家族の所、向かつてたんですか？

あの日はね、皆して、一番大事な人の所、向かつてたがらな  
美雪もね、賢一、探しに行つてたんですよ

少し・・・妹の話していいがな・・・妹はね、私が中学生の時の・・・冬休みに生まれてね・・・  
干支が、一回り違うんですよ・・・妹が産まれた日はね、キレイな雪が降つてたもんだから

親父がね、美しい雪、美雪つて名前付けたんですよ、単純でしょ、  
あれ、雪だったから、いがつたけど、もし、アラレが降つてたら・・・

アラレちゃんになってだよって、妹、笑ってたな

歌が好きでね、中学校、高校とずっと合唱部に入っていて、コンクールで何回も優勝したんですよ・・・ここだけの話、少しぼつちやりしてたからさ、声響くんだな、ここだけの話ね・・・私ね、妹が初めて、歌った歌・・・覚えてんですよ

♪「あかいめだまの さそり ひろげた鷲の翼」

「星めぐりの歌」って・・・これ、宮沢賢治さんが作ったんだって

両親が共稼ぎだったからさ、ちっちゃい頃は、よく、俺が面倒みでだんですよ

「銀河鉄道の夜」の絵本が大好きでね・・・何十回も読んでやったな・・・

銀河鉄道は亡くなった人の魂運ぶ列車だって言うのにな

そんな中で・・・ジョバンニがね・・・「星めぐり」を口笛で吹くって所があつて

それで教えてやったんです。それが妹が初めて歌った歌だな

親でもないのに良く憶えてるでしょ

親つつうのは、子供が、初めて歌った歌、覚えてるもんだよね

亡くなったお袋から聞いたんだけどさ、俺のは・・・「おさるのカゴヤ」なんだって

敏子さんは・・・息子さんが、初めて歌った歌、憶えてますか

昔ね、いぎなり、お兄ちゃん、人間が発明した物の中で

一番の物は、なーんだって聞がれでね、何だと思います

歌だっけ言うんだな、えっ？歌ってあの歌う歌が

歌って、誰かが発明したんだよ、だって・・・動物は歌わないでしょ

私はね・・・世紀の大発明は・・・リニアモーターカーでねえのか

列車が空中を走るんだからって言ったら

お兄ちゃん夢ないね、考えてみで歌の無い世界って淋しすぎるでしょ！だって。

♪「おさるのカゴヤ」歌う (似顔絵終わり)

何か・・・ノド乾いたな、やっぱり、歌ったからがな、お茶にしますか  
インスタントコーヒーだけどね

(鞆から紙コップ、ポット出し、二人分 注いで)

盛岡の火葬場も、やっとな動き出したからさ、家族見つけた仏さんから

連れでつもらえつから。敏子さんも、早く見つかつといいな

(回りの棺桶を見て ため息) まだ、残ってた・・・あの3つ並んでる棺桶には、

家族が納められでんだ。車の中で見つかつてさ・・・、三人で抱き合ってたんだと

あつちのは・・・赤ん坊、赤ん坊は・・・なんで泣きながら生まれてくんのがな・・・

1回も笑わねえで、亡くなったんでねえが・

(コーヒー飲みながら 片腕組み)

あの日は・・丁度休みだったんでね、私・・マシユマロ作ってたんですよ  
ホワイトデーのね・・ほら・・妹だけですから、バレンタインにチョコくれんのは  
だから、毎年、二人にね、マシユマロ作って・・やっぱり手作りは違うがらね  
料理だけですから・・私の趣味は。

マシユマロ簡単なんですよ、メレンゲ、ゼラチン、シロップを混ぜるだけ、ね、簡単でしょ  
仕上げのシュガーパウダーはね(飲んで)賢一の目の前でね、振りかけてやるんですよ  
よろこんでたな・・おんちゃん、ほんとの雪みでだなんて。ああ、この雪はな  
甘くて、暖けんだ、何たって、イーハトーブの雪だからな

・こんな雪の中、銀河鉄道は走んだぞ・

でね、さっそく持っていこうと思つたら・・地震が来ちゃってね・・

地震もさ、何も、ホワイトデーの直前に来なくても、いっちゃね

すぐ、妹のそこに向かったんだけど、5時間もかかってさ

着いたらもう、すつかり、夜になってたな、

あいつのアパートも・・賢一の幼稚園も、まだ、水ん中でね

(立って、窓を見ながら、小さく)また、降ってきたな(ポケットに手を入れ)

ずーっと、待ってだ・こんな風に、空見上げてね・何であんなに星が綺麗だったんだべな

亡くなった人の魂が、一つ一つの星なったような恐ろしいぐれい・・綺麗な星空だった・

あんな空なら・・銀河鉄道走ってでも不思議でねえよ

何万つう人が亡くなって、美雪も賢一もいねぐなって

(小さく)何で俺だけ残ってしまったのがな

妹の旦那はさ、新日鉄で働いてたがら結婚して、釜石に来てね

・・賢一生まれて・・まあ・・色々あって・・別れだんですよ

美雪ひとりで、賢一、育ててながら

花巻帰ってこいって言ったんだけど、こっちで合唱団にも入ったし、友達も出来たから

もう少し頑張ってみるって・ホームヘルパーの資格取って、ダイケアセンターに

勤めてたんです

(前見て)あの日は、施設のお年寄りを高台の避難所に連れて行った後に

「これがら、幼稚園に、賢一迎えに行つから・・お兄ちゃん・・みぞれ降ってきたよ」って

電話よこして、その後「賢一と会えたよ」ってメールがきて、それが・最後だったな

あのとき、怒鳴りつけでも・・そこ動くなつて言ったら

美雪だけでも・助かったんでねえが

「津波でんでんこ」って言って、津波が来たら、家族、バラバラに逃げろって言うけど  
(下向いて) 子供ほっといて逃げる親はいねえよな (敏子に) ね、敏子さん

(コーヒー2杯目 注ぎながら)

・敏子さんってさ、ああ、宮沢賢治さんの妹と・同じ名前だね、

ご両親は賢治さんのファンですか？まあ、イーハトーヴの人だろうからね (飲む)  
賢治さんが岩手県を理想郷のイーハトーヴって言ったのはね、何でも

エスペラント語から来てんだってね

あとほら、花巻は・ハームキヤ。盛岡は・モリーオってね

俺も昔から好きでさ、一番好きなのは「永訣の朝」って言う詩、知ってるがな  
ほら、賢治さんの妹の敏子さんが・遠くに行ってしまう、最後の朝にね

「あめゆじゆ とてちてけんじや」って二人が使ってた茶わんに、みぞれを、  
採ってきて下さいっていうんですよ

(腕組み、下見て) その、みぞれって、どんな味だったんだべ  
天上のアイスクリームっていうけど

(顔上げ) アイスクリームはやんだな、しゃっこいがら・歯にも染みるしな  
どうせだったら・・マシユマロがいいな。温かくて、柔らかくて・・ (飲む)

(窓見て) 今日も、みぞれ、降ってんな・、もうすぐ四月だって言うのに  
今年は、春來んのがな (飲む)

妹は・・笑い上戸でね、いっつも笑ってたな・・笑い出すと止まんねんだ

(手帳から、妹の写真出しながら) 親父の葬式の時も笑ってしまったんですよ  
いや、嬉しくて笑った訳ではなくてね

ご焼香の時にね、親戚のおんつあんが、立ち上がったとたん、足しびれてでね、  
お経読んでる、お坊さんに、おぶさってしまったってね、そんなもお坊さん何事もなくお経読んでたから (敏子に) それ見て、妹、ふきだしてしまってたね

つられて親戚一同笑ってしまったな  
不謹慎なんだけど・・なんだか少しだけ、気持ち、楽になった気がしたな

(写真に向かつて) なー

もしかして、人間の一番の発明つうのは、笑いでねえが

歌の無い世界も淋しいけど、笑いの無い世界はもっと寂しいがらな

・・今はな、何処からも、歌も、笑い声も聞こえないけど、いづが、いづがなー  
まだ、歌と笑いが (写真に) 戻ってくつといいな。 (写真しまう 手帳しまいながら)

去年の暮にね、盛岡劇場で合同合唱会あるから・賢一連れて、聞きに来てって言われてね  
「喜びの歌」っていうんですか。いやー・何百人で歌うと迫力あったな  
(鞆を置きながら、止まって) 何で最後の最後に、あの歌、歌ったのかな

(手をひぎの中に、揺れながら) 今日ね、初めて、賢一の幼稚園の近くに、行げだんですよ  
瓦礫の中に、やっと、道でぎでね、・・・(揺れ止まって) 何にもねぐなってだ!・・・  
風景が変わったどころか・・・(小さく) 風景ねぐなってだ

(手、ひぎで踏ん張って) そんなでもここは・・・イーハトーヴだから・・・  
イーハトーヴは・・・ドリームランドで・・・夢の国で、

そこでは・・・どんな悲しみも・・・どんな苦しみも・・・やがて・・・聖く・・・輝きだして  
田園の・・・風と・・・光に・・・みちあふれるんだって・・・

(コーヒーしまいながら)

ごめんね、話長くなってしまって、疲れたよね?

コーヒーも冷めだわな(コーヒー飲みきる)

良かったら・・・マシユマロ、味見してみで

(マシユマロを4個、紙に乗せる 上からシュガーパウダーを雪のように降らせる)

(曲「星めぐりの歌」 入る マシユマロを1個口に入れ 食べる 見つめる)  
んで、そろそろ帰っからさ・・・来週、また来っけど・・・そんな時は

(立ち上がって、初めて 敏子に 直接話しかける) (こごさ、残ってんなよ・・・

(棺桶の蓋を閉めて 合掌 銀河鉄道の音聞こえる 窓から空を見上げる) 幕

お問い合わせ [info@ginsbar.com](mailto:info@ginsbar.com)

ホームページ「ギンズバー」 <http://www.ginsbar.com>